



本庄市保健センターの事業.....対象者は旧本庄市域にお住まいの人です。

内容	日時	対象	その他
3～4か月児健康診査	6月27日 受付/午後1時～1時30分	平成18年2月生まれ	対象者に通知します。 電話による育児相談も随時受け付けています。
9～10か月児健康相談	6月27日 受付/午前9時30分～10時	平成17年8月生まれ	
1歳6か月児健康診査	6月26日 受付/午後1時～1時30分	平成16年11月生まれ	
2歳児健康相談	6月28日 受付/午前9時30分～10時	平成16年5月生まれ	
3歳児健康診査	6月28日 受付/午後1時～1時30分	平成15年5月生まれ	
BCG予防接種	6月22日 ..... 7月4日 ..... 受付/午後1時～1時30分	平成18年2月生まれ 平成18年3月生まれ	対象者に通知します。 接種可能な月齢は6か月未満です。
コアクラス (育児学級)	6月23日 午前10時～11時30分	2～3か月児と保護者	対象者に通知します。
カンガルー広場 (情報交換の場)	6月23日 午前9時30分～正午	0～2歳児と保護者	おやつを持ち込みはご遠慮ください。
すくすく相談 (育児・栄養相談、計測)	6月22日 午前9時30分～11時30分		前日までに電話予約してください。
おや親タマゴ(全4回)	6月2日・9日・16日・17日 午前9時30分～正午	これからママ・パパになる人	初日の前日までに電話予約してください。17日はできるだけご夫婦でご参加ください。旧児玉町域の人も対象。

児玉保健センターの事業.....対象者は旧児玉町域にお住まいの人です。

内容	日時	対象	その他
1歳6か月児健康診査	6月21日 受付/午後1時30分～2時	平成16年12月～17年1月生まれ	対象者に通知します。 電話による育児相談も随時受け付けています。
2歳児健康相談	6月20日 受付/午前9時30分～10時	平成16年4月～5月生まれ	
3歳児健康診査	6月20日 受付/午後1時30分～2時	平成15年4月～5月生まれ	
BCG予防接種	6月2日 ..... 6月30日 ..... 受付/午後1時30分～2時	平成18年2月生まれ 平成18年3月生まれ	対象者に通知します。 接種可能な月齢は6か月未満です。 終了後のひよこクラスにもぜひご参加ください。
ひよこクラス (育児学級)	BCG予防接種後に開催します。		
ゆうゆう広場 (情報交換の場)	6月12日 午前9時30分～正午	0～3歳児と保護者	おやつを持ち込みはご遠慮ください。
すくすく相談	6月30日 午前9時30分～11時30分		前日までに電話予約してください。

## 休日急患の診療

休日急患診療所（本庄市保健センター内 2003）

診療時間 午前9時～午後4時

診療科目 内科・小児科

健康保険証を持参してください。

### 在宅当番医療機関

診療は午前中のみです。当番医は変更になる場合もありますので、確認してからお出かけください。

6月4日	逸見耳鼻咽喉科医院	本庄市	4852
6月11日	細村耳鼻咽喉科医院	本庄市	3343
6月18日	松本産婦人科医院	本庄市	3377
6月25日	飯塚耳鼻咽喉科医院	上里町	裾2313
7月2日	飯塚内科産婦人科	本庄市	6311

119番は、緊急時（火災やけが人など）の受付専用電話番号です。夜間など、時間外に診療可能な病院については、児玉郡市広域消防本部指令課（1119）でご案内していますので、ご利用ください。ただし、診療科目によっては、県外や児玉郡市以外の病院をご案内する場合があります。

障害者生活支援センター『さわやか』

5620 FAX 5640

同じ障害がある人による相談

肢体不自由の人 随時受付

聴覚障害のある人 14日

視覚障害のある人 随時受付

理学療法士による相談

身体障害のある人 17日

介助教室

介助の人 24日

もの作りクラブ

身体障害のある人・その家族 23日

絵手紙教室

身体障害のある人・その家族 24日

は市民プラザで実施します。

時間 午前9時30分～11時30分

午後1時～3時

午後1時30分～3時30分



## 医療メモ

本庄市児玉郡医師会広報部

### 乳幼児嘔吐下痢症

急にはじまる「あげ・くだし」を主症状とする疾患の総称です。

感染性胃腸炎とも呼ばれ、ウイルスや細菌の感染により起こります。乳幼児ばかりでなく、まわりの大人にも感染し、発症することも珍しくありません。

幼稚園や保育園で流行するものも多くは、ノロウイルスやロタウイルス等のウイルス感染によるもので、時に発熱をとまなうため、冬の間では、インフルエンザとの区別がむずかしいこともあります。発症は急で、最初の6時間から12時間くらいまでの嘔吐、下痢（時にはそのどちらかだけ）の症状はかなり激しく、心配となりますが、多くは、2日目になると症状は鎮静化し、自然に回復に向かいます。

このため、ふだんから食事がとれている子供さんであれば、ひどい脱水になることは少なく、様子を見ていて大丈夫です。

発症直後は何を口にしても嘔吐するため、絶食とします。少し落ち着

いた後も、多量の水分を急に摂取させると再び嘔吐するため、ゼリー状のものや、氷など「いつぺんにたくさん飲み込めないもの」を少しずつ与えるのがコツです。濃い果汁やスープも刺激が強いため適当ではありません。

細菌感染によるものは、症状が重く、ウイルス感染が冬季に多いのに対し、夏季に多いのが特徴です。

病原菌としては、サルモネラ菌、カンピロバクター、病原性大腸菌などがあり、発症2日目以後も症状が良くならず、水様下痢以外に、膿のような粘液便や、粘血便を認めるようであれば、早期に医療行為を必要とします。

冬季に多い嘔吐下痢症は、家族内で順番にうつっていくことも多いので、最初に発症した子供さんの症状の推移を参考に、あわてずに経過を見てください。

